



WHITE ACADEMY PTA 実践NEWS LETTER

2020年10月号

お子様の就職活動に役立つノウハウを、ホワイトアカデミーPTA会員限定でお届けします

目次

目次

10月のご挨拶	1
就活指導の全体像	2
タイプ毎の就活対策方法	6
やりたいことが見つからない	9
22卒の選考スケジュール	11
終わりに	15

10月のご挨拶

日に日に秋の気配が深まっている今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？

ホワイトアカデミーには、例年以上に無料相談にいらっしゃる方が多く、こちらとしても、皆さんの焦りを肌身で感じています。

先月のニュースレターで「就活の天王山は秋」というお話をさせていただきましたが、比較的余裕のある**11月までが、腰を据えて能力開発できる最後のチャンス**になります。

今月号では、**就活の細かい戦術**について多岐に渡って解説していきますので、今後の戦略の見直しも含め、お子様に当てはめながら1つ1つの項目をお読みいただければ幸いです。

今月もニュースレターの内容を熟読し、お子様に1つでも2つでも内容をご共有いただくことで、来たるべき勝負の冬を迎えるに当たっての下準備を行っていきましょう。

竹内健登

就活指導の全体像

今月号では、そもそも就活指導をどのように行っていけばよいのかという全体像の話から入っていきます。

本人だけで就活を進める場合や親御様が関与する場合、ホワイトアカデミーの先生と就活に取り組む場合など様々なケースがありますが、いずれの場合も、次の3つのポイントを押さえることが就活を成功させる上での鍵になってきます。

1 生き方を見つめ直し、今後の人生を確立する

就活を始める上でまずポイントになってくるのが、**自身がどうあるべきか、人生をどうしていきたいのか**を定めることです。

中には、幼い頃から将来の夢がぶれず、そのまま社会に出ていくようなスポーツ選手などいますが、大多数の若者は、そもそもやりたいことなどありません。

これは至極当たり前のことで、日本でも戦前までは、生まれによってある程度一生が決まっていた側面がありましたが、戦後、職業選択の自由が広がる中で、社会に出たことがなく働くイメージも持てない状態で定職に就くという、ある種の無理強いを若者は突き付けられてきました。

親御様の世代では、まだ転職も珍しく、大学教授のコネを使うなどしてある程度既定路線の中で就職先が決まっていたましたが、今では**転職も見据えた上で自身のキャリアビジョンを描く**ことが必須になっています。

働くことのリアルなイメージが持てない中で5～10年先のキャリアビジョンを描くというのは中々難しいことですが、就活を通してこの辺りを明確にできるかが今後の仕事人生を大きく左右します。

では、キャリアビジョンを明確にするには何をすればいいのでしょうか？

1つは**過去の棚卸し**です。

自己分析をする中で、これまでの人生でどのような価値観を育んできたのかを明確にする必要があります。

人間はやりたくないことを嫌々やると色々な意味で限界を迎えるので、まずは、やりたくないことを明確にし、逆に、職務適性のあるものや強みを発揮できることを探していくのが自己分析の過程です。

もう1つは**ロールモデル**に出会うことです。

やはり、実際に生き生きと働いている社会人の話を聞かないと、自分がこれからどのような世界に足を踏み入れていくのかのイメージが掴めません。

逆に、OB/OG訪問やインターンシップなどを通じて低学年のうちから様々な業界の話を聞いていると様々なキャリアの描き方を知れるので、就活に取り組む際も比較的キャリアビジョンを描きやすくなります。

このように、就活では、**どれだけ自分のことを客観的に認識し、その後のキャリアをどれだけ具体的にイメージできるかが重要**になってきます。

就活は他人との競争ではありますが、自分の納得のいくキャリアを歩むための入り口であるというのが本質的な話です。

ここで間違った選択肢を選ぶと、後々、後悔することに繋がりがねないので、正確な情報を元に正しく判断する必要があります。

自分1人で独りよがり自己分析をするのではなく、自分のことをよく知っている周りの人の意見も踏まえて自己分析をしたり、様々な社会人の話を聞いて幅広いキャリアの選択肢を知った上で納得感のあるキャリアを選んだりさせるようにしましょう。

2 就活対策を進める

就活の基本方針が定まったら、いよいよ具体的な就活対策を進めていきます。

先月のニュースレターでお伝えしたように、就活スケジュールは刻一刻と進んでいきます。

まずは**業界毎の正しい就活スケジュールを把握し、秋冬インターンから早期内定**を取れるように準備していきましょう。

また、企業によって入社難易度は大きく異なります。

ホワイトアカデミーでは、入社難易度の低い企業から受け、徐々に内定レベルを上げていくよう指導していますが、そもそも入社難易度が正しく測れないと、正しい順序でエントリーができなくなってしまいます。

この辺りについても十分注意しながら受験企業を決めていく必要があります。

これ以外にも、履歴書やエントリーシートの添削、面接やグループディスカッションの対策、筆記試験対策など、就活でやるべきことは山のようにあります。

年が明けてしまうと、次から次に説明会や選考に参加しなければならなくなるので、比較的時間のある今の時期から早めに対策を進めておかないと、正直、間に合いません。

年末までにどこまで対策の精度を上げられたかで年明けの選考での通過率が大きく変わってくるので、念入りに対策を進めさせましょう。

3 職種・業界・企業研究

就活対策と並行して進める必要があるのが、職種や業界、企業に関する情報を収集することです。

よくあるのが、「自己分析をしたのはいいものの、どんな仕事に就いたらいいのか分からない」というパターンです。

実際、自己分析の目的は、自分に合った職種や業界、企業を見つけることにありますが、そもそも、職種や業界、企業に関する知識がなく、どこまで自己分析をやればいいのかよく分からないという声をよく聞きます。

正直に申し上げて、職種や業界、企業に関する知識を得るのは簡単ではないです。

例えば、職種であれば、身につけるべき職能から逆算して、いつ、どのような職種に就く必要があるのかを考える必要があります。

業界や企業に関する話であれば、実際にその業界で働いている人から各企業の特徴を聞き出す必要がありますし、自分の方でも、ホワイト度やビジネスモデルと経営戦略、各業界の動向などを具に調べていかなければなりません。

こういった細かい部分を1つずつ詰めていって、職種や業界、企業に関する知識をおぼろげながらも少しずつ付けていくのが就活です。

この辺りについては、自分でOB/OG訪問やインターンに繰り出して様々な話を聞くのと並行しながら、ホワイトアカデミーの講師から職種や業界、企業に関する様々な知識を得てもらった方が早いかと思います。

ここでどれだけ有用な知識が得られるかで今後の取り得る選択肢が大きく変わってくるので、抜かりなく情報収集することで、情報戦を制することができるようにしていきましょう。

就活指導で最も必要なこと

ここまで解説してきたように、就活では、やるべきことが本当に多岐に渡ります。

それを分かっている学生は早いうちから入念に準備をして納得のいくキャリアを実現しますし、そもそも、就活が大変であることを認識していなかったり、分かっている中々やるべきことができなかつたりした学生は、必ず後で痛い目を見ます。

特に、22卒のような厳選採用の年に当たった場合はこの差が顕著に表れるので、もし、就活の進捗が遅れている場合は、まだギリギリ何とかなる今の時期に急いで諸々の対策を進める必要があります。

そういう意味では、この時期に焦ってホワイトアカデミーにお見えになった方はギリギリセーフ、ニュースレターを読んでくださっている方も、今から正しい就活対策をお子様に進めさせられれば、まだ何とかなるという時期になります。

ここまでで挙げた内容は就活対策のごく一部ですが、これらをお子様1人で進めさせるのが不安だったり、親御様だけではカバーし切れなかったりする場合は、お早めにご相談いただければと思います。

新卒の就活は1度切りです。後で振り返って「最高のファーストキャリアだった」と思えるように、今から万全の対策を進めさせていきましょう。

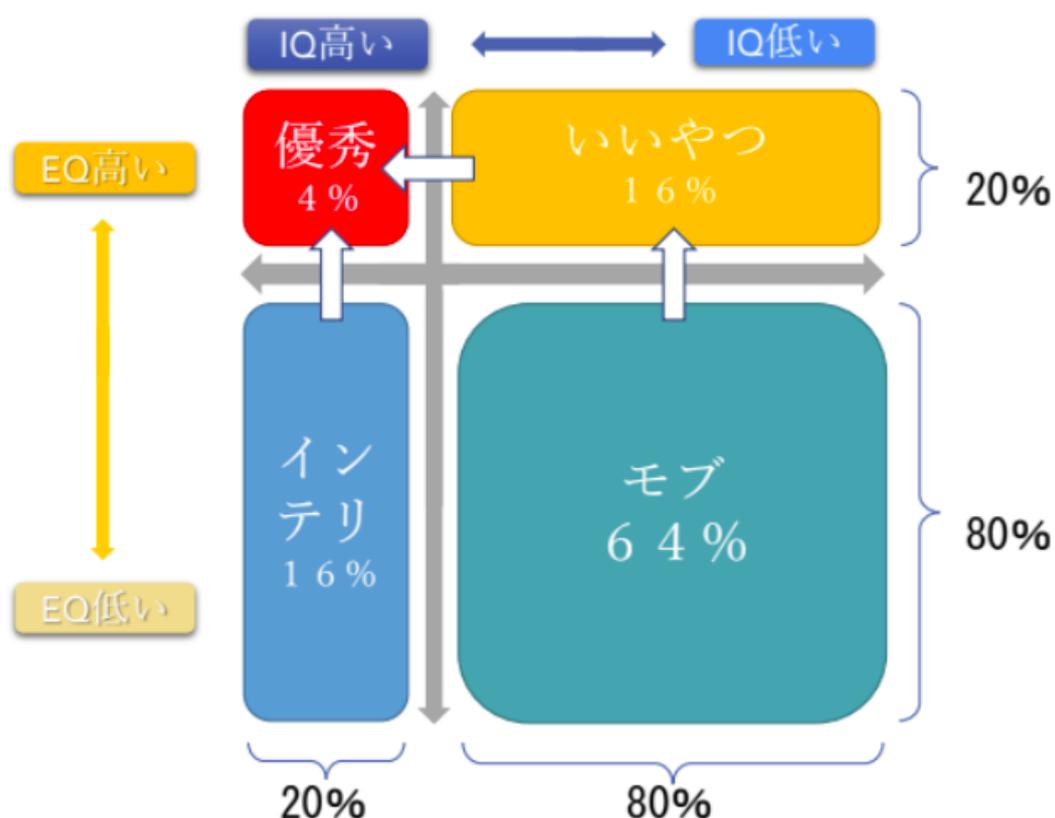
タイプ毎の就活対策方法

今月号では、普段よくいただくご質問にお答えする形で、紙幅の許す限り、具体的な就活対策の方法を解説していきます。

1つ目の話はタイプ毎の就活対策方法についてです。

普段から様々な生徒さんを見ていると、就活生は主に以下の4タイプに分類でき、それぞれで取るべき就活対策が大きく異なってきます。

就活生のタイプ別分類



IQは頭の良さ、EQはコミュニケーション能力の高さを表しますが、それぞれで上位2割と下位8割に分類したのが上図です。

IQとEQのどちらも高いトップ4%の学生は、いわゆる**優秀**と言われる学生で、**一流企業**の内定が十分狙えるレベルにいます。

このゾーンに入れるに越したことはないですが、元々持ち合わせているポテンシャルの問題もあるので、実際にこのレベルまで到達できる学生は、毎年、極僅かです。

次に、**EQは高いがIQは低い「いいやつ」**についてですが、イメージとしては、難しいビジネス課題は解けないが、対人的な配慮ができる学生がこのゾーンに当てはまります。

このゾーンの学生は、面接で理由を深掘りされたり、要素分解を求められたりした時の対策が必要になってくるので、**ロジカルシンキング**などを鍛えることで大手企業や一流企業に内定できるようになります。

次に、**IQは高いが協調性やコミュニケーションに難がある「インテリ」**属性の学生についてですが、正直、このタイプの学生は就活で苦戦する傾向にあるので、早急に**EQを高める**必要があります。

まずは正しい職業感を身につけ、会社への貢献意欲を高めるように指導する必要がありますが、EQが高い人に会わせて刺激を与えるというのも手です。

例えば、以前、私が担当した慶應ボーイは素行や態度が悪いインテリ属性でしたが、EQが高い先生に会わせたとこ、「こういうふうにはコミュニケーションを取ればいいんですね！」と求められるコミュニケーションのレベルを把握していました。

彼はコンサル会社に内定しましたが、インテリゾーンの学生は、頭は良いので、一度、EQの基準を理解すると、それに合わせてEQを高められる傾向にあります。

最後に、**IQとEQのどちらも低い「モブ」**ゾーンの学生ですが、大半の学生はここから就活をスタートしていきます。

よくやってしまうミスが、「就活では頭が良くないと評価されないから、まずは頭の良さをアピールしなくちゃ！」という考えに陥ってしまうことです。

就活では、「インテリ」属性の学生は苦戦する傾向にありますが、「いいやつ」属性の学生は、ロジックさえ強化すれば優良企業に内定するケースが多いです。

そのため、まずはIQよりEQを高めることを重視し、「いいやつ」ゾーンを目指すのが順当な戦略になります。

今の時点でモブゾーンにいる場合は、遅くとも年内には「いいやつ」ゾーンに入れるようにしておく、大手企業や一流企業に入れる可能性が高くなってきます。

このように、就活ではIQとEQのレベルによって取るべき対策が全く異なってきますが、それをまとめたのが以下の表です。

タイプ別の就活戦略

優秀

ビジネス課題の解決能力を高め、万全の対策をしましょう。外資系企業を狙うなら、それ専用のSPI対策やケース面接が必要です。抜かりのないようにしてください

いいやつ

SPIの特訓しながら、ビジネス課題の解決能力を高めていけば、容易に大手企業や一流企業に内定するレベルに到達できるでしょう。

インテリ

コミュニケーション能力や他人との協調性や受容性が課題となります。このゾーンは中途半端に頭が良いため、生意気な人材と見られてしまい、落選することが多いです。

モブ

険しい道のりですが、努力をすれば内定も不可能ではありません。ただ、そこまで努力する気にならないのであれば一流企業を目指すのはやめておきましょう。

就活ではEQが重視されるので、まずはEQを高めることが重要になってきます。

また、企業や業界によってIQとEQをどのくらい重視するかが異なってくるので、**志望業界や志望企業が決まった段階で求められる強みを伸ばしていく**こともポイントの1つです。

まずは最低限のEQを身につけさせた上で、志望業界や志望企業で求められるレベルを踏まえてバランスよく能力を強化していくようにしましょう。

なお、IQは筆記試験の点数などで比較的容易に判断できますが、EQに関しては、往々にして自分のことを高めに判断する傾向があるので、この辺りは注意が必要です。

親御様の方で客観的にEQを判断してあげるようにしてください。

やりたいことが見つからない

次の話は、やりたいことが見つからない場合にどうすればいいのかについてです。

いくら自己分析をしてもやりたいことが見つからず、これからどうやって就活を進めていけばいいのか悩んでいる就活生も多いですが、ポイントは、**向いていることにフォーカス**することです。

先述したように、まだ働いたことのない就活生にとっては、やりたい仕事のイメージを持つのは難しいことなので、1週間くらいでやりたいことがコロコロ変わることがよくあります。

例えば、先週は環境問題に興味があると言っていたのに、今週は人権に関する仕事がしたいと言いき、翌週には「稼ぎたいので外資に行きたい」と言ってくる生徒さんがいました。

このように、やりたいことがイマイチ定まらない場合は、向いていることから仕事を決めていくのが得策です。

向いていることはあまり変わりませんし、それがそのまま職務適性に繋がるので、まずはそういった得意な仕事に就くというのが現実的な選択肢になります。

また、やりたいことは実際に業務に携わる中でしか具体的に見えてきませんし、入社後も、その時々によってやりたいことは常に変わり続けていくので、そもそも、人生を賭けてやりたいことがいつ見つかるかは誰にも分かりません。

人によっては、そういったものが見つからないまま一生を終えることもあるので、正直、やりたいことがないこと自体はそんなに心配しなくてもいいのではないかと思います。

ただ、大半の学生が「とりあえず決めたやりたいこと」を元に就活をする中で1つだけ気をつけていただきたいこととしては、**自分が重要視していることを意識して仕事を見つける**ということです。

例えば、「人からありがとうと言われる仕事がしたい」という価値観を持っているのであれば、第三者から直接お礼を言われるような仕事に絞って就活をするといった具合に、**自分の価値観に沿った仕事に就く**というポイントだけは外さないことが大切です。

ここを外してしまうと、やりがいを感じられずに転職を考える羽目に陥ってしまうので、極力、自分が大切にしている価値観に沿って就活をさせていただければと思います。

ここまでの話をまとめると、就活生には目標達成型と天命追求型の2タイプがいるという話になります。

目標達成型というのは、自分のやりたいことが明確で、それを達成するために、そこから逆算してやるべきことを進めていくタイプです。

就活中にやりたいことが見つかるのは稀ですが、もしやりたいことが見つかった場合は、こちらのタイプに属すると考えていいでしょう。

一方、**天命追求型**というのは、**自分の価値観に沿った仕事をする中で、次から次にやりたいことが見えてくる**というタイプです。

現時点でやりたいことがないのであれば、「なんとなくこっちの方向かな」と考えて、ご縁のあった企業で働き始めることとなりますが、そこで頑張っているうちに、ジョブローテーションなどを通して適性のある仕事に就けるようになります。

場合によっては、担当することになった仕事が面白くて、それが生涯の仕事になることもあります。が、「なんとなくこっちの方向かな」という試行錯誤を繰り返す中で、最終的に自分の行きたい方向性に徐々に向かっていくのが、このタイプの特徴です。

つまり、やりたいことを見つけるというより、**気付いたらやりたくなっていた**というパターンです。

このように、就活生には目標達成型と天命追求型の2タイプがあるので、お子様がどちらであっても、それ自体は問題ではありません。

ただ、現時点でやりたいことがない場合でも、自分の価値観を元に行きたい方向性を模索し続けることは欠かせないので、そのきっかけとして新卒での就職活動を位置付けてもらえるといいのではないかと思います。

22卒の選考スケジュール

先述の内容で選考スケジュールについての話をしたので、ここでもう一度、今年度の選考スケジュールをおさらいしておきます。

今年度の選考スケジュールの目安は下図のようになっています。

22卒の選考スケジュール

年 月	インターンシップ (IS)			本選考		
	夏IS	秋IS	冬IS	外資	内資	夏採用
20 4						
5						
6	選考 (ES+SPI+面接)					
7						
8	IS本番 →内々定 (外資)					
9		選考 (ES+SPI+面接)				
10		IS本番→内々定				
11	選考 (ES+SPI+面接)		選考 (ES+SPI)			
12			IS本番→内々定	選考 (面接) →内々定		
21 1						
2						
3					選考 (ES+SPI)	
4					選考 (面接) →内々定	
5						
6						
7						ES→内々定
8						

先月号でお伝えしたように、トップティア戦略を取っている学生は夏の時点で外資系企業から内定を取っていますが、ほとんどの学生はまだ内定を取っていません。

ただ、業界にもよりますが、既に秋インターンから内定を取っている学生がちらほらと出てきており、まだ内定を取っていない場合でも、本格的に**秋インターン**に臨む時期に入っています。

11月から冬インターンの選考が始まるので、この時期に**夏の反省を踏まえて今後の戦略を練り直し、どのように冬以降の本格的な就活シーズンを迎えるかを考える**ようにしましょう。

ちなみに、冬のインターンは12月～2月にかけて行われ、そこでメガネに当たったら早期選考に呼ばれるという流れになります。

そこから**1～2月にかけて内定**が出るというのが理想であり、遅くとも3月末までには早期内定を取っておきたいところになります。

WHITE ACADEMY PTA 実践NEWS LETTER

なお、秋から冬にかけて早期選考をやっているメインの企業としては、**IT関連やコンサル、ベンチャー企業**になるので、こういった企業群を志望している場合は、既に就活が佳境に入っていると言えます。

また、11月には留学組や帰国子女向けにポストンキャリアフォーラムも行われる（今年はオンライン開催）ので、それに参加することで即内定を貰う学生も一定数います。

それ以外だと、逆求人サイトや夏・秋インターン経由で選考直結の企業を狙うというパターンがあり、中堅のゼネコンをはじめ、青田買いをしている企業もあるので、そういった企業から11月中に内定を貰えることもあります。

ここからは、上述のスケジュールを前提に、いつまでにどのような準備を進めればいいのかを下図に沿って解説していきます。

22卒の準備スケジュール

		就活準備			
年	月	自己分析	業界・企業研究	インターンシップ (IS)	OB・OG訪問
20	4				
	5	夏IS対策 選考 (ES+SPI+面接)	夏IS対策 選考 (ES+SPI+面接)	夏IS選考 (ES+SPI+面接)	自己分析 キャリアプランの策定
	6				
	7	秋IS対策 選考 (ES+SPI+面接)	秋IS対策 選考 (ES+SPI+面接)	夏IS本番	
	8			秋IS選考 (ES+SPI+面接)	
	9	冬IS・外資本選考対策 選考 (ES+SPI+面接)	冬IS・外資本選考対策 選考 (ES+SPI+面接)	秋IS本番→ 内々定	業界・企業研究 自分の志望する業界の 社員を訪問
	10			冬IS選考 (ES+SPI+面接)	
	11	内資本選考対策 選考 (ES+SPI+面接)	内資本選考対策 選考 (ES+SPI+面接)	冬IS本番→ 内々定	面接対策 自分の志望する企業の 社員を訪問
21	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				

11月以降に一番大事になってくるのは、**OB・OG訪問**です。

10月までに業界・企業研究はある程度終わらせているはずなので、ここからは、実際に**エントリーする企業の社員訪問**を頻繁に行っていく必要があります。

というのも、現役社員を訪問したかを面接で聞かれることがあるからです。

WHITE ACADEMY PTA 実践NEWS LETTER

ここで「現役社員は訪問していません」と答えてしまうと、「現役社員の話を聞かないと、うちがどんな会社か分からないでしょ？」ということで不採用にされる可能性があります。

また、これまで志望企業について調べてきたことを面接で話すと「それ、どこで知ったの？」と聞かれることもあるので、その際に「〇〇さんから聞きました」と言えると入社意欲の高さをアピールできます。

このように、これからの時期は、**どれだけ自分の足を使って、面接で使える話のネタを仕込めるか**が勝負になってくるので、まずはOB・OG訪問にしっかりと精を出すことがポイントとなってきます。

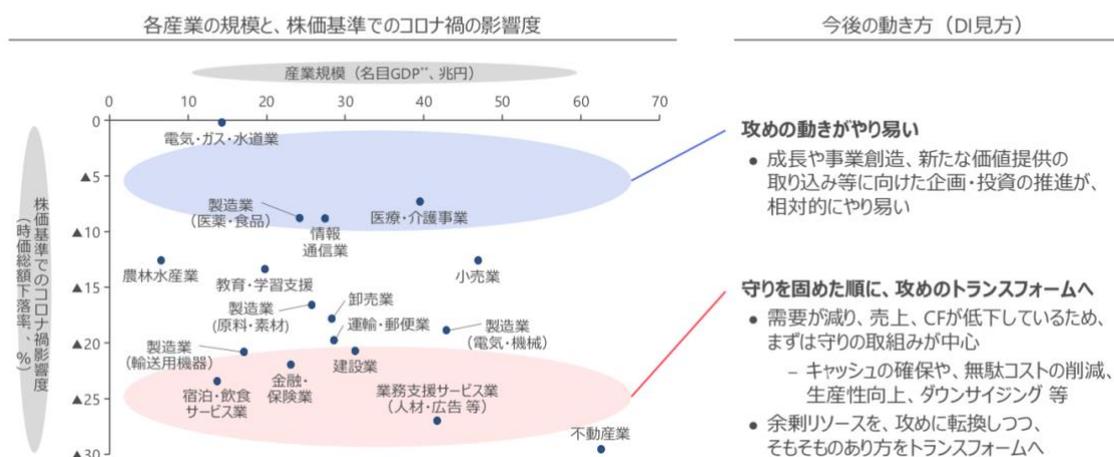
また、自己分析や業界・企業研究に関しては、この時期には既に完成しているのが前提になるので、まだエントリーシートのネタや志望企業が定まっていないのであれば、早急に詰める必要があります。

この時期からは志望企業の冬インターンへのエントリーも始まってくるので、エントリーシート添削や面接対策を進める中で自己分析や業界・企業研究をブラッシュアップしていきましょう。

なお、今年はコロナの影響で業界によって入社難易度が大きく異なるので、ドリームインキュベータ社が公表している以下の図表も参照しながら受験業界を決めることをおすすめします。

各業界への影響度合い

株価を基にすれば、影響の少ない業界は、「**インフラ、ヘルスケア、情報通信**」。逆に、「**宿泊・飲食、金融、建設、業務系サービス、不動産**」は影響が大きい（見込含む）。今後の動き方にも差が出てくる可能性



青色の業界は採用数が減らず、赤色の業界は採用数が減る見通しになっているので、この辺りも考慮しながら受験業界を選ぶようにした方がいいかと思います。

具体的には、**グローバル企業や三密産業、オリエンタルランドや東京ドームなどのエンタメ企業、ANAやJALなどの航空業界では、客足が戻らない見込みの場合は採用数が大幅に減る可能性**があります。

また、今後も合同企業説明会が中止される可能性があるため、就活生側で企業を事前に探し出しておく必要があります。

業界・企業研究をどこまで精緻にできたかでその後の就活の成否が大きく左右されるので、入念に業界や企業のリサーチをさせるようにしておきましょう。

ちなみに、今後、採用数が増える業界や企業としては、以下のようなものが挙げられます。

- 公衆衛生に関する産業（公衆衛生の企画作り、公衆衛生を盛り込んだホテルや小売店など）
- 遠隔サービスを可能にする産業（遠隔医療、リモートワーク推進、VR、ITなど）
- 特化型プラットフォーマー（ZOZOなど）
- プラットフォーマーから身を守るための施策を提案する仕事（オンラインでのブランディングやデザインなど）
- ロボットを活用する産業（医療機器、介護機器、ロボティクス、工場自動化など）
- デジタル化の波に乗る産業（キャッシュレス、RPA、SIer、それを支えるセキュリティーなど）
- デジタル化の恩恵を受ける産業（物流など）

このように、求人が増える産業と減る産業に明確に分かれていくので、仕事を奪われる側から奪う側に回ったほうが、チャンスは多いと言えるでしょう。

最後に、面接時における会話の組み立て方についてお伝えしてこの章を締め括ります。

企業によってコミュニケーションスタイルが異なるので、面接時における会話の組み立て方も、当然、企業によって異なったものになってきます。

例えば、外資系企業の場合は、**アジェンダを組み、論点を整理した上で話を展開**するというのが日常的な光景なので、このような話し方をすると「この子は分かっているね」ということになります。時間が無い人達を相手にする際は、結論ファーストで話さないだけで嫌われる可能性があるため、外資系企業を受ける場合は、話し方も意識させるようにしましょう。

終わりに

今月号では、就活における大まかな指導方針から、具体的な選考スケジュールや対策方法までお伝えしてきましたが、やはり、就活で一番大事なのは、**早めに1社目の内定を取る**ことです。これは、内定が一番の武器になるという意味合いでもそうですが、1社内定を持っていると、とても大きな**自信**になります。

「こういうにしたら受かる」というイメージも掴めるので、その後の就活がスムーズに進むようになります。

逆に言えば、1社受かるまでは成功パターンを確立できないので、「これでいいのかな？」という手探りの状態で就活を進めることになります。

これでは精神的にも結構堪えるので、なるべく余裕のある今の時期から、受かりそうなレベルの企業をピックアップして早めに内定を取っておくことが重要です。

まずは1社目の内定を取ることの重要性をお子様に伝えつつ、今回のニュースレターの内容を参考にして、お子様が就活に取り組むプロセスを見守っていただけますと幸いです。

それでは、また来月お会いしましょう。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

竹内健登

White Academy PTA実践ニュースレター

発行者：Avalon Consulting株式会社

住所：東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワーセンターN30階

電話：03-5326-3606

HP：<https://avalon-consulting.jp>